

## 造影MRVによる後頭静脈洞の解剖学的検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19158">http://hdl.handle.net/2297/19158</a>

学位授与番号	甲第 1799 号
学位授与年月日	平成 18 年 9 月 28 日
氏 名	小林 佳子
学位論文題目	Anatomical study of the occipital sinus using contrast-enhanced magnetic resonance venography (造影 MRV による後頭静脈洞の解剖学的検討)
論文審査委員	主 査 教 授 瀧田潤一郎 副 査 教 授 田中 重徳 小川 智

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

後頭蓋窩の手術時に後頭静脈洞の存在の認識は重要だが後頭静脈洞には解剖学的変異が多い。この検討では、EFGRE3D (enhanced fast gradient echo three-dimensional) を用いた造影 MRV により後頭静脈洞の頻度や解剖学的構造、方法の有用性について評価した。対象は EFGRE3D を用いた造影 MRV を施行した 555 人で、MIP、MPR、MPVR により詳細を検討した。結果は以下のように要約される。

1. 後頭静脈洞は MIP のみよりも MPR や MPVR も用いた方が高率に同定され、MPR や MPVR は後頭静脈洞の評価に有用だった。
2. 頭側では後頭静脈洞は静脈洞交会、横静脈洞、直静脈洞などと連続していた。5 人では直静脈洞は後頭静脈洞のみと連続し、2 人では直静脈洞は後頭静脈洞以外の血管とは細い吻合枝により連続しているのみだった。これらの例では後頭静脈洞は深部脳静脈の主要な流出路となっていると考えられた。
3. 尾側では椎骨静脈叢、辺縁静脈洞、S 状静脈洞などと連続していた。後頭静脈洞の一部は複数の血管と連続していた。
4. 一方の横静脈洞に腫瘍浸潤があり対側横静脈洞は低形成であるという症例があったが、大きな後頭静脈洞が同定されたため腫瘍の完全切除が可能だった。

これらの結果から、後頭静脈洞の解剖学的構造は多様で後頭蓋窩の術前評価には慎重な観察が必要であり、MIP、MPR、MPVR を用いた造影 MRV による硬膜静脈洞の検討は後頭蓋窩の術前評価に有用であると考えられた。

後頭蓋窩の手術を行う上で後頭静脈洞の評価は極めて重要である。本研究は従来のものよりさらに詳細な情報が得られる撮影法を使って後頭静脈洞の正確な分類を報告していることから学位に値すると判断された。